

## 1 離岸

●艇を浮かべてから、離岸するまでの一例を説明します。まず、艇を水面に浮かべたら、オールをオールロックに装着し、沖側のオールを出します。棧橋が整っている場合は、岸側のオールもセットしてから、転ばないように気をつけながら、中央のステッププレートか沖側のレールに足をかけます。そしてシートに座り、シューズを履きます。この場合は、岸にいる人にオールを押しってもらって岸から離れるので、オールを引かないで押し合うようにします。慣れたら「けりだそう、1・2・3」の指示で、岸をやさしく押しながら乗り込み、それからシートに座る手順もあります。しかし最初は無理をしないようにしましょう。岸を離れたら、もう一度オールロック、リガー、スライドや各部の固定を確認します。特にオールロックは重要です。

●なお、流れに対して「逆流で離岸」するのが、基本です。順流では、岸に沿って流されるので、危険です。艇を水面に置くときにすでに方向を考えておくべきですが、もしバウが下流方向に向いた状態に浮かべた場合は、バックロウで岸から離れるようにします。

## 2 着岸

●着岸の基本手順を説明します。コックスの指示に従い降りる用意をします。具体的には、オールロックのゲートピンを少しだけ緩め、シューズを緩め、靴下を脱ぎます。

●それから、流れの下流側から岸に接近します。つまりここでも、逆流が原則です。岸に斜め約30度程度の進入角度で、流れにあわせて艇速を調整します。速すぎるだけでなく、遅すぎることも、時には危険です。岸に接近したところで、沖側のサイドがロウからバランスへ、そしてストップロウをして岸に平行にします。コックスの指示に従い、一人ずつ降ります。

### 補足1：艇の状態をコックスからアナウンスしてもらう

●離・着岸はコックスもいそがしく作業するために、必要最小限の言葉で次々と指示が出ます。基本的にはそれに従えばよいのですが、視覚障害者にとっては、ボート全体のおかれた状況がどうなっているのか、最初はわかりにくいかもしれません。状況がわからないことは、単純に不安であるということだけでなく、ボートの安全機能に参画できないことを意味します。熟練したコックスであれば、ボートがどういう位置にいるかの情報を、少しアナウンスして、クルー全員が安心して着岸操作に参加できるようにするでしょう。

### 補足2：陸上からの補助

●クルーは、自力で離・着岸できるようになるべきですが、安全を考え、無理せず補助者に協力してもらっても良いでしょう。もし補助者がいても自分で着岸まで持っていきたい場合は、補助者とのコミュニケーションをとって、補助の要否、タイミングを調整しましょう。補助者に手伝ってもらったら、忘れずにお礼を言きましょう。

●陸上の補助者は、アダプティブ・クルーでも無造作に手を出さず、まずクルーの技量と意思（独力でつきたいのか手伝ってもらいたいのか）を確認しましょう。手伝う場合、ブレードの押し引きは、シャフトを水面と平行にするよう心がけます。